

中野島のひるば

2008年1月
市議会報告
日本共産党
市会議員
井口まみ

(発行)
日本共産党市会議員団
川崎市川崎区宮本町1
電話 200-3360
FAX 245-4140
http://www.iguchi-mami.jp
メール: mail@iguchi-mami.jp

川崎の水道水

井口議員、12月議会で質問

市内唯一の水源をなくしてよいのか



昨年12月議会で質問する井口まみ市会議員

川崎市が昨年作った「川崎市水道事業再構築計画」では、菅や中野島の地下水をくみあげ、多摩区のほぼ全域に飲料水を供給している生田浄水場を廃止することがもりこまれていきます。これは市内唯一の自己水源をなくすことです。井口まみ市議は、十二月議会の一般質問で「川崎の水道をこれからどうするかは、もっと市民の意見を聞くべき」と水道局長をたどりました。

生田浄水場をなくしたら 水源はすべて遠いところに

川崎の水道の水源は3つ。そのうちの2つは川崎市独自の自己水源で、一つが相模湖。川崎まで三二kmあります。もう一つがこの中野島、菅を中心に井戸でくみ上げている地下水です。あとひとつは県、横浜市、横須賀市と川崎市が共同出資して設立した「神奈川県内広域水道企業団」の飯泉取水堰で、酒匂川下流から川崎まで五六kmという遠い水です。

井戸をなくし、生田浄水場を廃止すると、川崎市民の飲料水はすべて遠いところから送ってこなくてはならなくなります。万一の災害時の対応が心配されます。井口市議が「自己水源を維持すべきではないか」とたどすと、栗冠水道局長は「地下水も含めて自己水源は重要。地下水も非常時の飲料水として活用する」と

こたえました。非常用として活用するということは、廃止してはいけないということ証明しているのではないのでしょうか。

なぜ生田浄水場の廃止なのか

水道局長は生田浄水場の廃止の理由を「より効率的で効果的に水源を確保するため」とこたえました。しかし、本当の理由は、企業団から買っている水があまっているため、自己水源をなくして水の量を調整するためなのです。企業団の水のほとんどは一九六九年以来、ずっと臨海部の大企業が買ってきました。しかし大企業が、もういらぬというので、長沢浄水場を改築して、企業団の水を飲料水にしてその料金も市民が払うように体系を変えようというのが「再構築計画」の内容です。

井口市議は「企業団も経営を見直して、全量を買っていることが前提でなくなる可能性もある。川崎の水道をどうするのか、もっと市民の声を聞くべき」とたどりましたが、水道局長は「再構築計画の内容をホームページなどで広報し、理解を得たい」と答えただけでした。

川崎の水道水は どうしておいしいの？

「川崎の水はおいしい」と評判です。それは水源がきれいなのが一番の理由です。水源のひとつ、相模湖からは二つの導水トンネルを通して、長沢浄水場（多摩区）と潮見台浄水場（宮前区）に送っています。



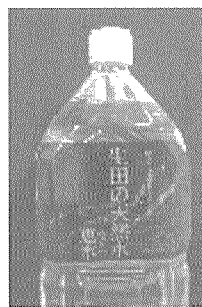
原水には自然の泥が混じってかなりにごつています。原水は、まず沈殿池に送られ、大きな泥の粒子を沈めて上澄みを「フロック形成池」に流します。水にPAC（ポリ塩化アルミニウム）という薬を入れると、泥の細かい粒子をひきつけて大きな粒子になって取り除かれ、水はほとんど澄んでいきます。

これで濁度は国の基準をクリアできるのですが、さらにきれいにするために、ろ過池に行きます。細かい砂の層をおすことで、濁度は0.1度以下になります。

この水に最後に塩素を入れて、家庭へと送られます。水道水は家庭の蛇口で塩素の残留率が最低0.1%はなければならぬと法律で決められているため、最小限の塩素はどうしても必要なのです。長沢浄水場の特徴は、これらのすべての行程を自然流水で行っていて、ポンプを使う電気がほとんどかかりません。

相模湖から取った水はこれで処理が終わりますが、水がもつと汚いと、活性炭を入れて臭いや汚染物質を取り除いたり、もつといろいろな薬品を入れて高度処理をしなければいけません。この高度処理には莫大なコストがかかるといわれ、他都市ではそのために大幅な料金値上げもあつたそうです。企業団の水は、酒匂川や相模川の下流が原水のため、飲料水の受け入れにはこの懸念が生じます。

いっぽう、水がもつときれいであれば処理の過程が減ります。それが生田浄水場です。地下水を井戸から取っている生田の水は、泥がまじっていないので、沈殿池がいらず、ろ過池だけあればいいのです。地下水はミネラル分もあり、川崎市では簡単なる過だけしてペットボトルで売っているほどです。多摩区の水はおいしいといわれている川崎の水の中でも、もっとおいしい水なのです。



水道局が販売している「生田の天然水 恵水(めぐみ)」多摩区では民家園等4か所売っています。

16年越しの願い あきらめず、ついに 市営多摩川住宅にバス開通！

一九九二年、「多摩川住宅にバスを」という署名が始まりました。それから一六年。さまざまな困難を乗り越えてついにこの春、多摩川住宅にバスが通ります。住民の皆さんがあきらめずに運動を続けた大きな成果です。日本共産党もこの間、市村ごろう前議員が四回、井口まみ議員が二回など議会でも繰り返し取り上げてきました。

バス停も整備完了

今回実現したバス路線は、下の図のように、老人福祉センターから中原公園をグルッとまわるといふコースです。当初は、老人福祉センターの周りを回るだけというものでしたが、昨年三月、川崎市が近隣の住民にアンケートを行って意向を聞いていました。

アンケートでは、道路の安全などいくつかの意見もあったことから、バス停の整備も行い、道路整備も完了し、警察などとの協議も終って、国の路線認可が下りるのを待つばかりとなっています。順調にいけば、今年三月にも、バスが走り始めます。



一時間に一本

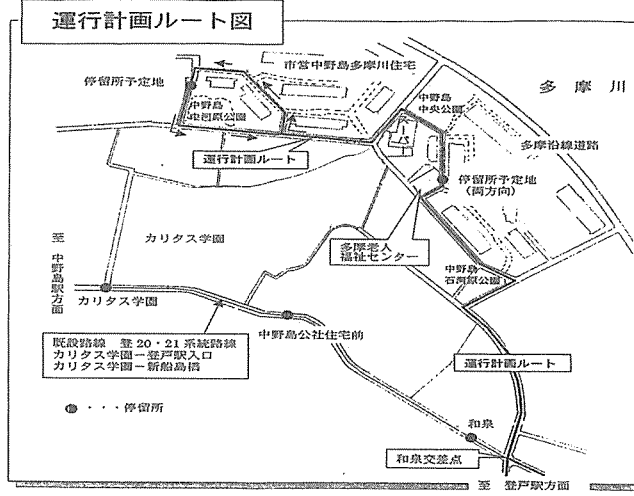
朝九時前から夜八時まで

川崎市は、バスの台数や運転手を増やすことをしないため、この路線もカリタス学園前行きを一時間に一本間引いて、多摩川住宅に廻すという方法で路線を増やしています。そ

のため、朝はカリタスに行ってしまう、住宅に来るのは八時半過ぎからになります。夜は住民の意見を取り入れて八時まで運行することになりました。

他の地域も交通網の充実を

中野島は、交通の便の悪いところが多く、「ミニバスを通してほしい」「多摩スポーツセンター行きバスをぜひ」という声がたくさん聞かれます。これからもひきつづき、中野島地域の交通網の充実に取り組んでいきたいと思えます。



神奈川県は県立の全日制高校の定員を、中学卒業予定者の六割にしています。あとの四割は私立に行くようにするためです。しかし、お金がなければ私立にはいきません。公立を志望して、全日制に合格できず、定時制を受ける生徒が毎年増え続けています。



希望する高校に入学できるように「修学資金」制度の周知を 市議会議員 井口まみ

我が家にも受験生がいますが、「県立は誰が落ちるかほとんどに分らない。心配でたまらない」と苦しい中三の胸のうちの話を聞いています。県立高校の定員を増や

すこと、私学の授業料を下げさせることが必要ですが、これはおもに県の仕事。川崎市ができることは、お金の心配をしなくて希望する学校に入学できる条件を整備することだと思えます。

そのひとつとして、低所得世帯むけに学費を無利子、二〇年返済で貸し出す「修学資金」について、議会で取り上げました。これなら入学手続きのときにお金を借りられるので、私学の手続きにも間

井口市議の 議会質問が実る

三月までに設置予定

災害時の避難用備蓄倉庫は、おもに中学校に整備されています。しかし、中野島地域は、線路で分断されているため、中野島中学校だけでは万一のときに線路の北側の避難所の対応が心配だとして、おとしし十月、市議会決算審査特別委員会で井口まみ市議は、「中学校だけでなく、小学校にも備蓄倉庫の整備を行うべき」と求めていました。

災害時の避難用備蓄倉庫

下布田小にも設置へ

このほど、川崎市は市内の二つの小学校にも備蓄倉庫を設置することを決定し、そのうちのひとつが下布田小学校であることが明らかになりました。その理由も「南武線が横断しているため、南武線を境にした備蓄状況に考慮した」とのことでした。具体的には、下布田小学校のプールの横に、三月までには建設されることになっています。今後、避難所訓練など、地域の皆さんと旺盛な訓練活動で、いざというときにこれらの施設が有効に活用できるようにしていきたい

